
事業計画書

2021（令和3）年度



2021年3月

学校法人 樟蔭学園

2021（令和3）年度事業計画の策定にあたって

2020年度は、新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）という未曾有の危機を契機として、世界中のあらゆる産業が従来の価値観や方法論、あるいは業態さえ見直しを余儀なくされました。多くの大学では、ソーシャルディスタンスの必要性から、対面が難しいという制約条件の中で、殆ど初めての経験といってよいオンライン授業を実施することになる等、大学をはじめ諸学校を取り巻く環境はこの1年間で劇的に変わりました。

そのような状況の中で、本学園では、長期ビジョン「Shoin Vision 2030」達成のための具体的な行動計画として、2020年度より第Ⅲ期中長期計画をスタートさせました。

今後も、社会情勢が変化しても常に適応していくことができるよう、学園のシンボルである樟（くすのき）のように内なる輝きを発する女性を育成する「樟蔭美」という幹を以て、計画に沿いながら、めざす方向に向かって、教育の質を高め、本学園で学ぶ意味をしっかりと社会に伝えていきます。また、自律的なガバナンスのもとで、経営の透明性の向上に努め、公教育の担い手として、社会の理解と支援を得ることができるよう努めていきます。

同時に、不測の事態に対応して自らを変革する能力が求められる今、既存の資産や知識等を再構成し、相互組み合わせ等を行っていくとともに、予定の未来図に修正を加えながら、新たなシナリオを準備していき、学園として社会に存在する意義は何であるのかという問いに答えていきます。

社会に貢献できる学園として在るべく、今ここに、2021年度の事業計画を策定しました。



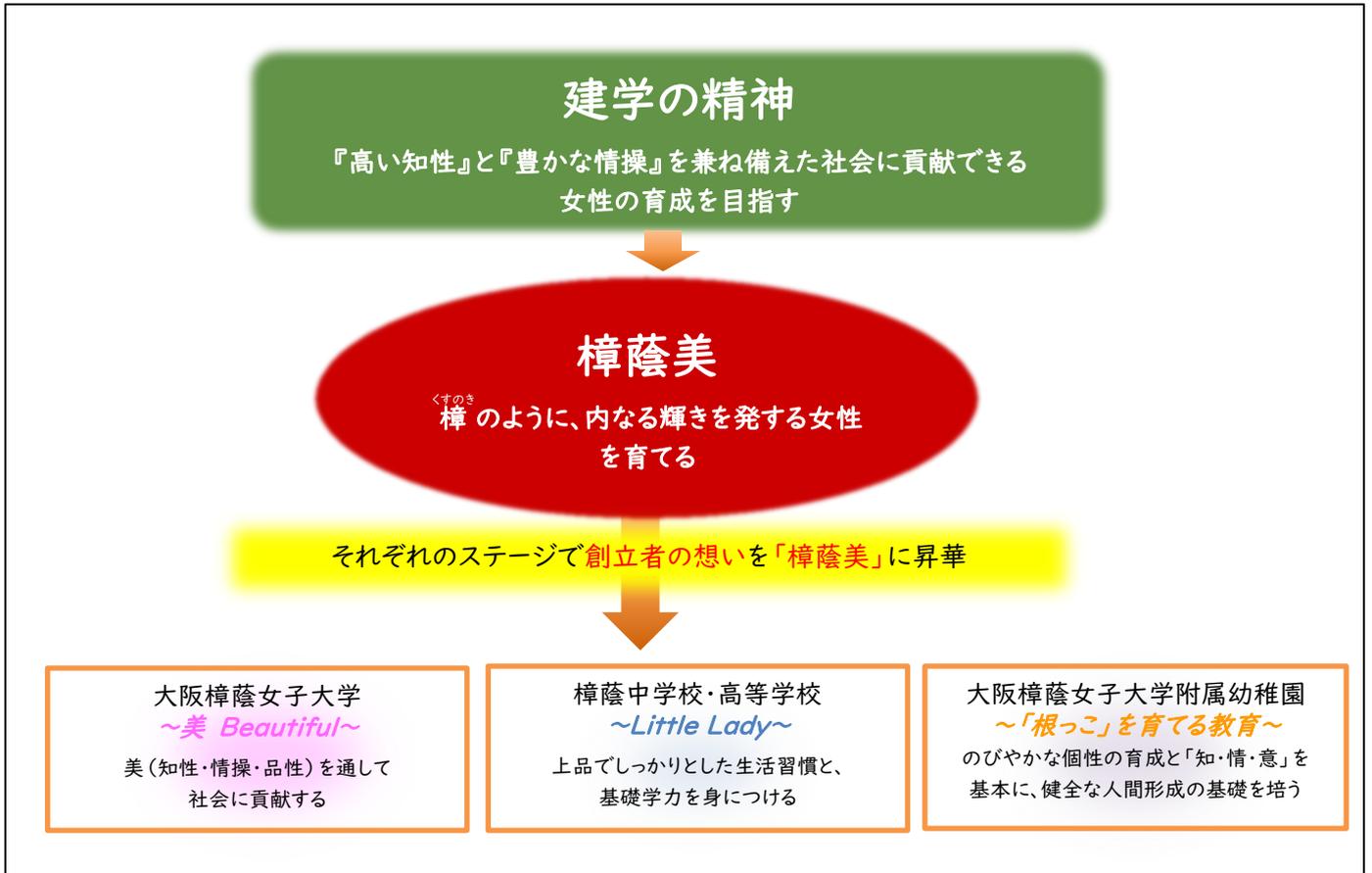
目次

2021（令和3）年度事業計画の策定にあたって	1
学園及び設置校の将来像（長期ビジョン）と中期計画の位置付け	2
I 設置する学校・学部・学科等	3
II 設置学校及び学園の事業計画	
大学・大学院	4
高校・中学	9
附属幼稚園	12
学園	14

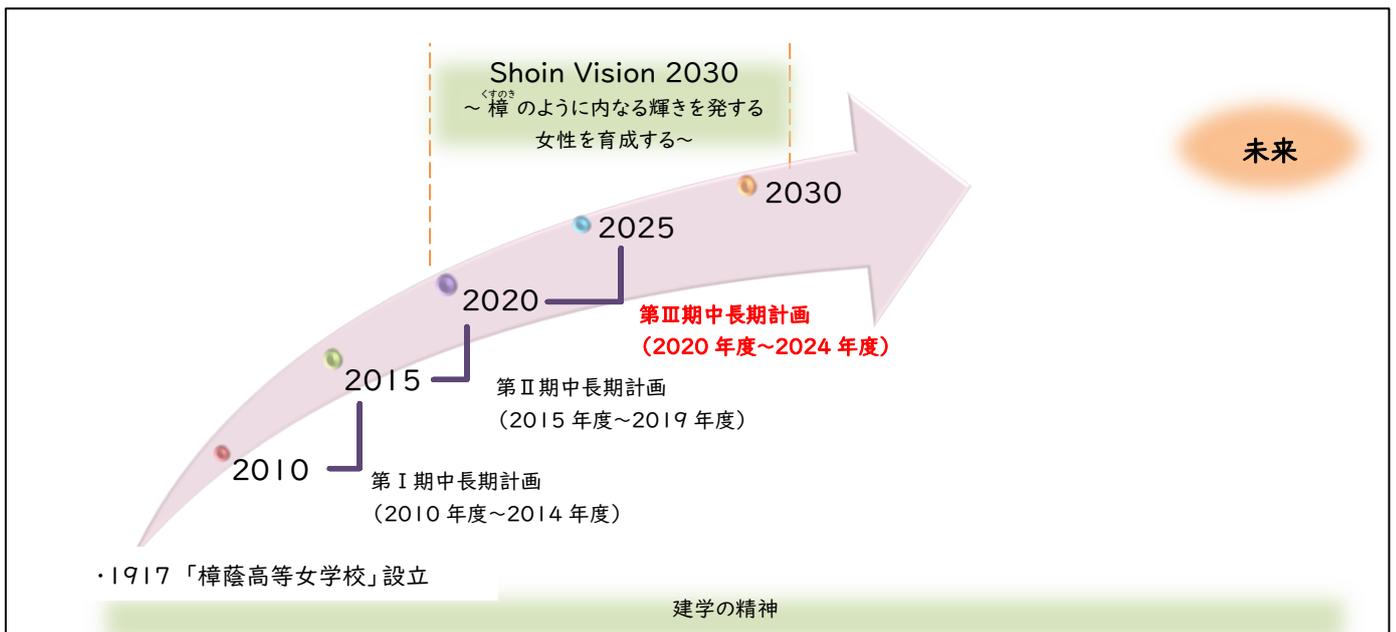
Shoin Vision 2030

学園及び設置校の将来像（長期ビジョン）

樟蔭学園が百有余年の歴史の中で育て上げてきたものの根幹は、学生生徒それぞれが内なるものとして培った女性としての芯、意思、またその強さであり、「樟蔭美」という価値観に集約されます。今後、建学の精神のもとに、「樟のように内なる輝きを発する女性を育てる」ことを通じて、社会の幸せのために力を発揮していける存在として在り続けます。



中期計画の位置付け



I 設置する学校・学部・学科等

(2021年4月)

○大阪樟蔭女子大学

研究科・学部・学科	学位	入学定員	収容定員	開設年度
人間科学研究科(修士課程)				
臨床心理学専攻	修士(臨床心理学)	8	16	2004(H16)年4月
人間栄養学専攻	修士(人間栄養学)	8	16	2005(H17)年4月
化粧ファッション学専攻	修士(化粧ファッション学)	10	20	2013(H25)年4月
大学院計		26	52	
学芸学部				
国文学科※3	学士(国文学)	60	280	1949(S24)年4月
国際英語学科	学士(国際英語学)	40	160	2010(H22)年4月
心理学科	学士(心理学)	80	320	2015(H27)年4月
ライフプランニング学科※4	学士(ライフプランニング)	60	200	2007(H19)年4月
化粧ファッション学科	学士(被服学)	120	480	1949(S24)年4月
計		360	1,440	
心理学部				
臨床心理学科※1	学士(心理学)	—	—	2009(H21)年4月
心理学科※1	学士(心理学)	—	—	2009(H21)年4月
計		—	—	
児童教育学部※2				
児童教育学科※2	学士(児童教育学)	170	660	2009(H21)年4月
計		170	660	
健康栄養学部				
健康栄養学科	学士(健康栄養学)	160	640	2015(H27)年4月
計		160	640	
学部計		690	2,740	
大学計		716	2,792	

※1 2015年度募集停止 ※2 2018年度児童学部児童学科より名称変更、2019年度より収容定員増加

※3 2020年度より収容定員削減 ※4 2020年度より収容定員増加

註) 名称変更を行っている学科の開設年度は、当初の学科の開設年度を記載しています。

開設年度のSは「昭和」、Hは「平成」を表します。

○樟蔭高等学校

設置課程等	コース	募集定員	開設年度
全日制普通科	国際教養、看護系進学、総合進学、 身体表現、児童教育、フードスタディ	280 (内部:70) (外部:210)	1948(S23)4月

○樟蔭中学校

コース	募集定員	開設年度
国際教養、総合進学、身体表現	70	1947(S22)4月

○大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

	募集定員	開設年度
3・2・1年保育	3歳児:50 4歳児・5歳児:若干名	1951(S26)4月

Ⅱ 設置学校及び学園の事業計画

【大阪樟蔭女子大学・大学院】

樟蔭学園の『建学の精神』に則り、2030年度に向けて策定したグランドデザイン「美（知性・情操・品性）を通して社会に貢献する～美 Beautiful～」の趣旨に沿ったビジョンの具体化を推進します。

1 使命・目的の実践				
No.	施策	目標	2021年度事業計画	年数
グランドデザイン 2030と変化への対応				
1	グランドデザインの浸透	建学の精神を踏まえ、グランドデザインが学内外に認知され、2030年度に向けて実行されている	前年度の履行状況の検証 各種施策6つのビジョンに沿った取り組みの実行	2/5年目
2	時代の変化に対応した学部・学科改革	社会情勢・動向を考慮し、他大学にはない魅力を有し社会に求められる学部学科構成になっている	引き続き情報を収集し、検討した内容の実現に向けた実行	2/5年目
教育研究組織の革新と充実				
3	学芸学部の充実	充実した教養教育を実施するとともに、各学科の長所を活かして学部の一体感を醸成した教育が展開されている	学士課程基幹教育科目を中心に一体感のあるカリキュラムの検討	2/5年目
4	児童教育学部の充実	保育士ならびに幼稚園、小学校、中学校の教育現場で活躍する人材を育成し、社会に輩出している	2019年度よりスタートした新カリキュラムの検証 2022年度（完成年度）に向けた課題の抽出と改善策の検討	2/5年目
5	健康栄養学部の充実	管理栄養士・栄養士を中心に広く栄養・食・教育の分野で時代のニーズに対応して活躍する人材を育成し、社会に輩出している	体制の見直しの継続 実行できるところからの改善実行	2/5年目

2 学生の受け入れ				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
安定した学生確保に向けた入試制度・広報体制の整備				
6	新入試制度への対応	2021年度新入試制度の検証・改善を踏まえ、2024年度入試への対応が問題なく終了している 定員690名に対して730名[約1.06倍]の入学生を安定的に確保できるようになっている	新入試制度の検証・改善 2021年度新入試とオープンキャンパス運営の連関の検証・見直し	2/5年目
7	安定した学生確保に向けた広報体制の整備	広報体制や広報的な技術能力の見直しを進め、効率的、戦略的な広報を行い、オープンキャンパス等のイベントへの参加を促進することで安定した入学者数を確保することができている 高校等への訪問によるダイレクトな広報を効果的に行うよう工夫している（営業力を強化している）	「広報組織力」「関係構築力」の強化 「戦略構築力」の強化 「情報発信力」の強化 「イベント誘導力」の強化	2/5年目
8	組織横断的な教職員連携強化（教職協働）	入試関連行事・広報活動を通して、部署を超えての協業体制や情報が双方向で流れ共有する体制ができており、教職員の有機的な連携ができています	水平的コミュニケーション強化2 戦略系会議への複数部署職員の参加促進 入試広報課とその他の職員が意見を交換しアイデアを出し合う機会の増設 指名職員による高校訪問活動の試行的稼働 学外説明会での説明要員の育成	2/5年目

9	ステークホルダーとの連携強化	心理的距離にある受験生や高等学校に対して、教学あるいは財務的な諸制度やメリットを提供し、常に振り向いてもらえるようになっている	協定校への教学メリットの訴求 入試制度見直し(要件・実施方法等) 新入試制度での魅力訴求 発信力の強化	2/5 年目
---	----------------	---	--	-----------

3 学生のサポート				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
学修支援				
10	学修支援体制の充実	学修者本位の濃い学びが修得可能な学習環境が提供できるよう、不断にその支援体制の見直し、充実を図っている	学生の意見・要望も汲み上げた学修支援体制の見直しと計画的な充実 前年度の意見・要望を踏まえた計画の立案ならびに実行実現	2/5 年目
11	特別な配慮を求める学生への学修支援策の提供	すべての教職員が、支援が必要な学生について理解し、所属学科と連携しており、支援が必要な学生が求める支援を受けることができている	支援に関する相談業務の充実(支援方法の検討を含む) 障がい理解に関する情報提供 対応困難事例への支援会議による介入 支援会議によるコーディネーター・学科間の連携の見直しと強化 教職員の障がい理解促進	2/5 年目
キャリア支援				
12	キャリア教育の充実・強化	全学科1年次から4年次までのキャリア教育体制が整備されている	1年生キャリア科目の必修化の検討 1年生向けインターンシップの検討開始 就職活動における各学科との連携強化	2/5 年目
13	就職・進学支援体制の充実	学生が卒業までに自分の希望する進路を決定し、選択することができている	4年間の就職・進学支援行事として再構築 アンケート結果等を活用した就職活動に対する動機付けの強化	2/5 年目
14	教職希望者に対する支援策の実施	教職支援センターの円滑な運営がなされ、教職を志す学生のニーズに応える支援を提供できている (エントリー数:毎年度400名以上) (利用者数:延べ360名以上) (教職志望学生の90%が利用)	学生の意見・要望に対応した教職支援センターの活動の整備と充実 学年進行に即した教職志望学生に対する支援体制の整備充実 教員採用試験の受験率の更なる向上	2/5 年目
学生生活支援				
15	学生生活支援体制の充実	すべての学生が充実した学生生活を過ごすための支援を受けることができている	ワンストップサービスに向けた学生生活支援体制の検討 課外活動充実策の具体化 新たな学生生活支援の検討	2/5 年目
16	特別な配慮を必要とする学生生活支援体制の充実	すべての教職員において、支援が必要な学生について理解が進み、学生に関わる各部署が連携しており、支援が必要な学生が求める支援を受けることができている	障がい理解に関する情報提供 対応困難事例への支援会議による介入 各部署連携の見直しと強化 教職員の障がい理解推進体制の検討	2/5 年目
学修環境の整備				
17	施設・設備の適切な管理と運営	教育目的達成のため、校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設などの施設設備を適切に整備し、かつ有効に活用している	管理体制に基づく各種施設・設備の整備 施設・設備の有効な活用方法の検討	2/5 年目
18	バリアフリー化を含む施設・設備の利便性向上	施設・設備の利便性(バリアフリーなど)に配慮している	教職員・学生からの要望や各種アンケート等から課題の抽出 設備改善計画の作成及び実行	2/5 年目

学生の意見・要望への対応				
19	学生の意見・要望の収集と把握	学生の意見や要望について、複数の調査・アンケートによって、十分に収集、把握ができています	入学時、在学中、卒業時のアンケート調査の見直しと実施 見直された意見・要望収集方法の実施	2/5 年目
20	学生の意見・要望の分析と対応	各種の調査やアンケートによって把握された学生の意見や要望について、分析が実施され、適切に対応できている	把握された学生の意見や要望の分析の実施 分析結果の活用と適切な対応	2/5 年目
退学者低減に向けた支援の充実				
21	退学者の低減に向けた施策の推進	IR データに基づき低減に向けた施策が推進され、退学者率が3%未満となっている	データ解析に基づく修学面から困難になる学生に対する施策の立案と実施	2/5 年目

4 教育課程の改善				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
3つのポリシーの継続的な検証と改善				
22	学部・学科における3つのポリシーの検証と改善	毎年、各学部、各学科のミッションを含めた3つのポリシーの検証を行い、学修者本位の教育の質の向上を図るべく、教育課程の改善に努めている	ミッション・ポリシーの検証 ホームページへの開示(年度末)	2/5 年目
カリキュラム・教育方法の改善・向上				
23	カリキュラム編成及び運用の改善・向上	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに則った適切な卒業判定・進級判定が実施されている カリキュラムポリシーに即した体系的な教育課程が編成され、それに基づくナンバリングや履修系統図が作成される一方、それらを活用したシラバスの充実・強化等が図られている ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを実現するための柔軟な学年暦が運用されている	卒業判定・進級判定基準等の厳正な運用 シラバスの充実 教育課程の見直し、改善の実施 新たなコンセプトに基づく学年暦の実施とそれに対応した履修系統図の提示	2/5 年目
24	教育方法の改善・向上	組織的な計画の下、アクティブ・ラーニングやICT等が十分に活用され、教育方法の改善が不断になされている	先進的な教育方法に関する情報共有による改善促進 アクティブ・ラーニングやICT活用の推進 教育環境整備計画の実施	2/5 年目
学修成果の点検・評価				
25	3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価と学生への浸透	毎年度、3つのポリシーを踏まえた学修成果について点検・評価を実施している 学生自身が学修成果を実感・理解できるような方法・システムが構築されている	学修成果の点検・評価の実施 提案した学修成果のふりかえり方法の実施と検討・修正	2/5 年目

5 教学マネジメント、教員・職員配置、研修				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
教学マネジメントの機能性の向上				
26	適切な教学マネジメントの体制の再構築	学長がリーダーシップを適切に発揮し、全学点検・評価会議を着実に実施している	教学マネジメントの遂行に伴う機能性向上の検証	2/5 年目

教員の配置				
27	教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置	大学及び大学院に必要な専任教員を確保し、適切に配置している	2020年度に策定した人員配置計画の実施	2/5年目
教員・職員の職能開発・研修				
28	FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施	「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」を踏まえたFD、その他教員研修の組織的な実施とその見直しを行っている	FD、その他教員研修の組織的な実施と見直し	2/5年目
29	資質・能力の向上に向けた研修の実施	教職員の資質・能力向上のための研修等を組織的に実施し、組織人としてSD (Staff Development) 活動が活発になされている	事務職員向けの第Ⅲ期研修計画の実施 FD・SD活動推進委員会との連携の元、教職員合同研修の実施	2/5年目

6 研究支援				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
研究活動の推進・充実				
30	外部研究資金獲得への支援の充実	情報提供、資料作成支援体制を整備し、科研費その他の研究助成への応募者数が毎年増加している (応募者数:2020年比30%増)	情報提供、資料作成支援業務開始	2/5年目
31	学内のリソースを活かした共同研究の推進	研究内容の開示とマッチングが行われ、年間10件以上の学外の研究機関との共同研究が進行している	担当組織の整備 学内外の研究担当者のマッチング活動開始	2/5年目
32	研究環境の整備	年間5件以上のシンポジウムを開催し、社会へアカデミック情報の発信がなされている 研究計画書ならびにResearch map更新が100%なされ、教員の研究気運が高まっている	(シンポジウムの開催) (研究計画書の提出) (Research map更新)	2/5年目
樟蔭美科学研究所の設立・運営				
33	樟蔭美科学研究所の設立・運営	2020年度にスタートした研究所の円滑なる運営がなされ、研究成果を社会へ還元している 美に関する研究内容の開示とマッチング作業を行い、学内外の研究者・機関との共同研究が推進されている (美に関する研究テーマ3件、学会発表2件)	学内研究連携のマッチング作業を開始	2/5年目

7 内部質保証				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
内部質保証のための自己点検・評価の実施				
34	定期的な自己点検・評価の実施	全学的な定期的点検・評価が毎年確実に実行されている	委員会ならびに会議の円滑な稼働 2022年度における日本高等教育評価機構の認証評価受審に向けての準備	2/5年目

教学 IR 体制の強化				
35	IR 体制の整備・充実	教学マネジメント体制が適切に機能している 各種情報の集約がなされ、教学マネジメント体制の改善・改革に必要なデータの開示と活用が進んでいる	教学マネジメントに関する研修会の実施 IR 担当部署による入試、学務、学生データの管理体制構築 入試、学務、学生データの学内への開示促進	2/5 年目
36	IR データの積極的活用	集約された各種情報やデータが積極的に活用されている	集約された情報の積極的な開示 IR データ活用の推進及び報告会の開催 IR データを活用した学園ブランディングの推進	2/5 年目

8 グローバル化への対応				
No.	施策	最終目標	2021 年度事業計画	年数
国際化に対応した教育体制の構築				
37	内なる国際化に対応した語学教育の充実	内なる国際化にも対応した英語を中心とした語学教育が充実している	学士課程基幹教育科目の「外国語」の見直し検討 各学部・学科においても外国語教育の検討開始 英語での授業展開の試行継続（希望教員）	2/5 年目
38	海外研修（派遣）の強化	英語圏に限らず、留学希望する学生に対して支援が行われている	繰り返し検討内容の見直し	2/5 年目
39	外国人学生の受入れ	全学生の約 2%の外国人学生を受け入れている	国内日本語学校と連携 留学生市場の開拓・広報活動（教職員を海外へ派遣） 短中期留学の充実 日研生の受入れ 正規学生確保のための学内整備 HPの充実 留学生受入れ体制の充実	2/5 年目

9 地域連携・産学官連携				
No.	施策	最終目標	2021 年度事業計画	年数
地域連携				
40	地域連携の活性と強化	地方自治体との協定による活動が前年度以上に活発に行われている 学生主体の地域連携プロジェクト等学生の地域における活動を積極的に支援している (プロジェクト数:5 件)	地域との連携強化(協定を結んだ地方自治体の事業計画に基づきテーマ設定) 地方自治体のテーマに基づく学生プロジェクトの募集 各自治体との連携を継続しながら、本学の教育内容に則した地域活動のあり方を再検討 SDGsを基本理念として構造化していくため、運営委員会において基本方針の検討、具体的な活動計画の策定	2/5 年目
41	附属施設による地域貢献	カウンセリングセンター、くすのき健康栄養センター及び子育て絵本館等の地域貢献活動が活発になっている	利用実績の増加のみでなく、事業内容を充実化 心身の健康の維持・増進や子育て支援を目的とした複数のセンター連携事業など、地域への貢献度の高い事業内容の計画・実施	2/5 年目
産学官連携				
42	産学官連携の活性と強化	企業、地方自治体からの相談、受託研究受入の窓口を開設し、学内外の研究担当者とのマッチングによる連携実績がある (マッチング件数:年間 10 件以上)	(学内外の研究担当者のマッチング)	2/5 年目

【高校・中学】

高校・中学では、「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成を目指し、そのために「一人一人の夢を育て、その実現を目指す女子校」「一人一人の思いを大切にす、面倒見の良い女子校」「一人一人の興味・関心を引き出し、能力を高めていく女子校」として、日々、取り組んでいきます。

1 樟蔭女子教育				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
「知情意」を兼ね備えた Little Lady の育成				
1	生活指導を通じた“Little Lady”の育成	生徒全員が、情操教育・マナーを身に付け思いやりの心を持っている	挨拶、言葉遣い、身嗜みなど、集団生活におけるマナーを学校生活のあらゆる場面において指導 情報モラル教育の内容の見直し 樟蔭レッスンの内容の見直し	2/5 年目
キャリア教育の実践				
2	発達段階に応じたキャリア教育の実践	生徒全員が、自分の将来について考える力を持っている	進路指導部によるキャリアホームルームの実施・改善 興味・関心や能力・適性を理解し、将来について考えることができる段階的な取り組みの実践 年間キャリア教育プログラムの確立	2/5 年目
人間力の育成				
3	励まし合いや思い遣りの心を養う教育活動の実践	生徒全員が、励まし合いや思い遣りの心を持っている	人権教育行事の内容の見直し 自治会指導部によるクラブ活動方針の確立と実践 樟蔭スタイルの内容の改善	2/5 年目
2 定員充足				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
生徒及び保護者の口コミによる広報効果の向上				
4	満足度の向上	生徒・保護者の満足度が90%を超え、それが口コミで生徒募集に繋がっている	満足度調査の実施・結果の分析(調査検討PT) 分析結果をもとに不満点の改善(運営委員会) 生徒、保護者満足度調査の実施による満足度の把握(満足度:90%以上)	2/5 年目
広報活動の充実				
5	塾・中学校への効果的な広報の実施	効果的な広報活動を行い、定員の確保が出来ている	重点塾、重点中学校、重点地域への広報 検討した中高のウリとアピール方法による広報 検討した塾・中学への訪問	2/5 年目
6	メディア企画室による広報活動の充実	効果的なメディアによる広報活動で定員の確保が出来ている	メディア企画室による広報手段(マスコミ、WEB)の見直し 広報ツール(パンフ、チラシ等)の見直し	2/5 年目
新たな広報活動の実施				
7	樟蔭イングリッシュアカデミーの実施	樟蔭イングリッシュアカデミー(SEA)から児童が中学に入学している	SEAの実施と改善	2/5 年目
高校総合進学コースの特色の明確化				
8	高校総合進学コースをSS(セルフスタディ)コースとする	高校総合進学コースをSSコースとして完成	SSコースの試行	1/4 年目

3 教育力の向上 (FD)				
No.	施策	最終目標	2021 年度事業計画	年数
教員の資質の向上				
9	授業力の向上	教員一人ひとりの授業力が向上している	各プロジェクトチームによる効果検証と見直し 授業アンケートの実施と結果の活用による授業の改善 研究授業の実施による授業内容・方法の相互チェックと改善(研究授業:各教科年間2回合計18回) 管理職による教員の授業力向上に向けた授業見学及び助言指導(授業見学:各教員年間1回) 電子黒板及びメディア教室を活用した ICT 教育の推進(全授業の80%以上) アクティブラーニングによる授業の充実(全授業の80%以上)	2/5 年目
10	教員研修の実施	教員研修により意欲の向上と生徒・保護者への対応能力が向上している	管理職による定期的な研修及び面談の実施 「到達目標システム」による目標設定と到達度のチェック	2/5 年目

4 進路希望の100%実現				
No.	施策	最終目標	2021 年度事業計画	年数
学力の向上				
11	補習等の制度の充実	生徒の学力が向上し、進路希望が100%実現している	補習授業の実施 フォローアップ講座(英・数)(通年週1回) 制度補習(国際・看護) 個別指導 AO入試対策講座(高3) (進路希望100%実現)	2/5 年目

5 グローバル化への対応				
No.	施策	最終目標	2021 年度事業計画	年数
グローバル教育の実践				
12	グローバル教育の充実	グローバル化に対応できる生徒を育成している	i-lounge におけるグローバル教育の充実を図る行事の見直し 英検(準1級2名、2級30名、準2級50名、3級200名) 英語弁論大会及び英語暗唱大会 国際交流(台湾・ニュージーランドとの Skype 交流) 学内留学(心理学・児童英語教育) 外国人教員による英検講座 海外研修(台湾・ニュージーランド・イギリス)	2/5 年目

6 サポート体制の充実				
No.	施策	最終目標	2021 年度事業計画	年数
キャリアサポートクラスの運営の充実				
13	キャリアサポートクラスの運営の充実	キャリアサポートクラス(CS クラス)を4クラス編成とし、在籍する生徒がきめ細やかなサポートを受けている	更なる担当教員の連携強化 3クラス編成に向けた検討 (CSクラスの在籍者数:40名)	2/5 年目

強化クラブの充実				
14	強化クラブの充実	強化クラブ(7クラブ)が近畿、全国大会に出場している	外部指導員の採用	2/5年目

7 ガバナンスの強化				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
中高組織の点検と見直し				
15	業務の見直し	業務の見直しを行った結果、仕事が厳選され働きやすい職場になっている	各部署・各委員会・各教科で業務の課題解決に向けた取り組みを実施	2/5年目
16	会議の活性化と時間短縮	議論中心の会議となり、会議時間が短縮されている	効率がよく、議論中心の会議が行われているかを検証	2/5年目
17	教員の授業持ち時間数の見直し	規程の持ち時間数となっている	検討結果をもとに、課題解決に向けた取り組みを実施	2/5年目
外部評価による組織の改善				
18	外部評価の結果の現場への取り入れと履行	外部からの評価・意見を取り入れ、評価結果をもとに改善できる環境が整っている	2020年度に検討した仕組みで現場に取り入れ、履行 年度末に外部評価委員会を実施	2/5年目

8 安心・安全な環境の提供				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
環境整備				
19	トイレ及び教室等の改修	トイレの改修、机・椅子の入れ替えをし、教育環境が改善されている	改善計画をもとに、不備を改善 20号棟の生徒トイレの改修	2/5年目
災害対策				
20	災害時の対応の改善	災害に備え避難訓練を実施し、災害備蓄品が完備されている (中高生徒全員分×1日分)	避難訓練の実施(年1回) 生徒用災害備蓄品の完備	2/5年目

【附属幼稚園】

附属幼稚園では、「未来を生きるための根っこを育てる保育」を保育方針に、子ども達が主体的に取り組める保育、受け止めて伸ばす保育を目指します。保育内容・保育環境の充実、教員の資質向上・保護者との関係強化を行い、樟蔭幼稚園のあるべき教育について多方面から引き続き取り組んでいきます。

また園児確保に向けて、未就園児クラス・新入児関連行事の見直し・改善に取り組み、園庭開放についても、未就園児クラスへの入園を見据え、従来に加えて樟蔭幼稚園の魅力を実感してもらえるような内容を検討・実施します。

今年度までに培われた樟蔭幼稚園の一人一人を大切にす保育を引き継ぐと同時に、未来を見据えた「質の高い保育」を目指して、諸施策を実施していきます。

1 入園者の確保				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
教育の質の向上				
1	カリキュラムの充実	カリキュラムの見直しが行われ、保育内容が充実している	2020年度の議論をもとに改善	2/5年目
職員の質の向上				
2	職員間の共通理解	学期末に全職員が次学期の保育内容について検討し、課題を共通理解し保育に努める	全職員が共通理解を図るためのミーティング実施 可視化した保育内容の更新	2/5年目
3	研修の充実	定期的・体系的な園内研修を実施している	現在の園内研修（園内公開保育）について、実施内容・時期の見直しと改善 外部講師の依頼	2/5年目
子育て支援の充実				
4	長期休暇中の預かり保育の実施	盆、正月以外の預かり保育を実施している	条件を満たすために必要な人・施設設備について学園と協議	2/5年目
5	給食の増加	給食を週3回（現在は週2回）実施している	週3回の給食の実施	2/5年目
商圈エリアの拡大				
6	車送迎の実現	車通園者が日常的に車寄せを利用している	利用状況に基づいて利用時間の検討 利用者へのアンケート実施	2/5年目
広報活動				
7	ポスター貼り、広告配布、Web広告、ホームページの充実	広報媒体の範囲が拡大している	引き続き有効な広報媒体の活用 新しい広報媒体の検討	2/5年目

2 未就園児の確保				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
未就園児クラスの充実				
8	保育時間の延長	降園時刻が13時になっている	13時までの保育と昼食の実施について再検討	2/5年目

園庭開放の充実				
9	広報、SNSの強化	園庭開放についての広報が活発に行われ、来場者数増加につながっている	改善した広報の実行 引き続きアンケートを通して広報の効果の検証	2/5 年目
10	内容の充実	内容が充実し、来場者が満足している	実施時に行ったアンケートや、他園の取り組みを参考に、内容の検討、充実	2/5 年目

3 安心・安全の確保				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
環境整備				
11	点検・修理・修繕	計画的に点検・修理・修繕を行い、安心・安全な保育環境を提供している	点検シートをもとに日々の点検、必要な修理修繕計画をもとに実行	2/5 年目

4 大学・高校との連携				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
様々な学科等との連携				
12	健康栄養学科との連携	健康栄養学科から給食、おやつ等の監修・提供がされている	学科との話し合い、連携内容のまとめ	2/5 年目
13	化粧ファッション学科との連携	化粧ファッション学科から手作り衣装・玩具等が提供されている	学科との話し合い、連携内容のまとめ	2/5 年目
14	児童教育学科との連携	教育実習、ボランティア活動の場が提供できているとともに、共同研究、行事(子育てカレッジなど)参加が促進されている	教育実習、ボランティア活動に協力し、共同研究、行事参加(子育てカレッジなど)の継続	2/5 年目
15	ELTCとの連携	外国人教員が常駐している	ELTC、学園と話し合い可能な範囲を決定	2/5 年目
16	児童教育コース(高校)との連携	保育・実習体験に協力し、行事の手伝い・参加を維持している	保育・実習体験に協力するとともに、園行事の手伝い・参加をお願いする	2/5 年目

5 地域との連携				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
地域交流の充実				
17	幼稚園行事の地域開放	タベの集い、焼き芋パーティー、野菜の収穫等を地域に開放している	地域と話し合い、開放できる行事の内容と広報の方法を決定	2/5 年目

【学園】

学校法人樟蔭学園では、今後も社会から必要とされる教育機関として生き残るため、状況の変化に対応し、教育の質の保証を担保するとともに、経営の効率化による持続的かつ安定した財政基盤を確立していきます。そのためにも、ガバナンス機能の強化、教育機能の強化、職員の能力向上、施設設備の充実等、積極的に取り組んでいきます。

1 建学の精神の浸透				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
建学の精神に基づく学園ブランディングの再構築				
1	建学の精神とその現代的解釈の学内外への浸透策の検討・実施	建学の精神を現代的に解釈した「樟蔭美」のブランドが確立され、学内外に浸透している	前年度の取り組みの見直しと改善 学園全体での「樟蔭美」の具現化の継続 2020年度にタスクフォースで検討等した広報に係る技法や各部門協力体制を維持して、学園広報をより展開していけるようになる	2/5 年目

2 中高大接続				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
中高大の連携強化				
2	各コースと学科の連携強化	高校の各コースと大学の各学科の連携を強化することにより、内部進学の特長が明確になっている	連携内容の実践	2/5 年目
3	教育プログラムの接続	高大教育連携部会において、特色ある高大一貫科目を設置し、魅力ある単位認定制度を構築している 初年次教育において、新たな教育プログラムを実施している	現行の接続教育プログラムの改善 認定単位化できるものから内部校を対象に開始 新たな初年次教育プログラムの検討	2/5 年目
4	内部進学推進と入試制度の整備	樟蔭高校から大阪樟蔭女子大学への内部進学者数120名を確保している	内部校への進学メリットの検証 新入試制度下での内部進学の特長訴求 内部校教員・生徒への働きかけ強化 各行事の実施と内容の改善及び効果検証（中高全教員対象学部学科説明会、高3担任情報交換会、生徒対象進路説明会、学科別説明会、大学授業体験、中高保護者対象説明会、リソースを活かした連携イベント、オープンキャンパス） （内部進学者数：110名）	2/5 年目

3 経営・ガバナンス強化				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
理事会機能の強化				
5	役員の職務及び責任の明確化	運営基盤が強化され、教育の質の向上及びその運営の透明性の確保が図られている	役員機能の強化（研修等の実施） ガバナンス・コードに沿った運営基盤の強化 6月に役員等への研修等を開催	2/5 年目
中期的な計画の策定				
6	第Ⅲ期中長期計画アクションプランの実行	Shoin Vision 2030 第Ⅲ期中長期計画の目標が確実に達成されている	2021年度アクションプランの確実な実行と管理 単年度評価軸の策定、2020年度評価の実施 計画の進捗度の客観的指標の策定 単年度（2021年度）の中間（進捗）チェック	2/5 年目

情報公開の充実				
7	法人・教学部門双方の積極的な情報公開	法人・教学部門の情報が積極的に公開され運営の透明性の確保が図られている	積極的な公開による透明性の確保 「事業報告書(2020年度)」のフォーマット・内容をリニューアルし、より公開性の高いものへと見直す	2/5 年目

4 働き方改革や、制度・運用の見直し				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
時間外労働の削減				
8	業務負荷分析による適正な人員配置と適材配置	業務負荷分析により各部署に適正な人員と適材が配置されている 学園全体の残業時間が削減されている(残業時間数:2019年度と比較して15%削減)	業務負荷分析の結果に基づく、適正な人員と適材の配置(残業時間数:2019年度から6%削減) 人事考課制度の評価結果の分析、問題点の洗い出し 残業時間の経年比較、適正な人員配置(案)を作成	2/5 年目
同一労働同一賃金の導入				
9	身分や業務に即した役割と待遇の明確化	身分毎・部門毎の役割が明確化され、その内容について労働者が理解し納得している	法令と本学園の現状の整合性確認、必要に応じて改正 同一労働同一賃金の判例に従った規程(案)の作成	2/5 年目
規程の整備				
10	規程体系と諸規定の見直し	明確に体系化した規程が周知できている	法令や他大学の規程と比較検討し、学園における基本規程(就業規則等)の見直し 労働基準監督署への届け出 学園の就業規則(無期転換向け就業規則を含む)の見直しの検討	2/5 年目
11	手当や申請書の見直し	適切な手当が支給されている 適切な申請書が使用されている	手当の見直しをもとに規程の改正 2020年度に行った各校の諸手当の情報をもとに、手当の見直し及び関連規程の改正の検討	2/5 年目
危機管理対策の充実				
12	危機管理マニュアルの見直しと危機管理体制の強化	十分な危機管理対策のもと、教職員が危機管理について理解し、有事に対応できる	2020年に見直した危機管理マニュアルに沿った備蓄や緊急連絡網の整備	2/5 年目

5 人財の育成				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
学校職員としての資質向上				
13	階層研修の見直し	求める能力に即した研修が実施されている	第Ⅲ期研修計画の実施状況の確認と検証 第Ⅲ期研修計画の本格的な実施 年度当初における研修ガイドの配信	2/5 年目
14	OJT型(学内講師)研修の充実	学内において管理職、一般職が講師として研修が行われている	次年度OJT研修の立案と実施(講師:管理職) 学内講師(管理職)によるOJT研修の企画、実施、次年度に向けた検証	2/5 年目

6 寄付金募集				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
寄付金収入の確保				
15	寄付に協力しやすい環境づくり	税金の優遇措置などを明記した効果的な趣意書を作成し、学園報発送時に同封している 寄付しやすい振込方法を実施し、寄付金収入が増加している (1年間の一般寄付金収入:1000万円)	効果的な趣意書の作成と発送 効果的な振込方法を導入(銀行からの振込み) その他の協力しやすい環境づくりの検討もしくは実行 「記念館耐震改修」の募金の募集	2/5 年目
16	寄付者データの整備	寄付者データベースの運用と活用がなされている	寄付者データ管理方法の検討、構築 卒業生の名簿とマッチングできるよう管理方法の検討	2/5 年目

7 知名度の向上				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
学園としての広報活動の強化				
17	学内外への情報発信力の強化	プレスリリースでの情報発信を活発に行い、報道機関からの取材が増加し、マスコミとの連携が強化されている(プレスリリース:50件、報道機関からの取材:25件) SNS、広報誌等で教職員、卒業生、保護者への情報発信を行い、帰属意識が高まっている 各校の定員充足につながっている	2020年度に検討した効果的なプレスリリース、SNSの配信の仕方を実行 (プレスリリース:30件、報道機関からの取材:20件)	2/5 年目
18	学園で一貫した戦略による広報活動の充実	費用対効果の高い駅看板、駅貼りを活用する等、学園で一貫した戦略による広報活動を実施している	2020年度の見直しに基づき、効果的な駅看板、駅貼り等の実施 駅看板、駅貼りだけでなく、他のツールの検討	2/5 年目

8 樟蔭愛の顕在化				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
卒業生(同窓会含む)とのネットワークの強化				
19	ホームカミングデーの企画・運営	毎年250名以上が参加している	企画・運営の検証・改善 コロナの影響による不開催の場合に備えた企画・運営の改善 卒業生向けの動画の作成	2/5 年目
20	同窓会との連携及び相互協力関係の強化	同窓会と連携して卒業生向けのイベント等を行い、相互協力関係が強化されている	卒業生向けの講演会等の企画の実施 (同窓会の協力も得ながらの実施)	2/5 年目
21	学園報「くすのき」の発行と卒業生向けのSNS「樟蔭ファミリー」の発信	学園報やSNSがさまざまな世代の卒業生と学園をつなぐツールとして運営されている	2020年度の検証をもとに、楽しみにしてもらえるツールへの改善 「樟蔭ファミリー」のインスタグラム(又はTwitter)の実施 「くすのき」において卒業生の参加コーナー設定	2/5 年目
22	卒業生のデータベースの構築と活用	卒業生名簿の管理業務を同窓会から学園側へ移管し、就職先等を含めた卒業生データベースが完成している	データベースの構築、現況調査のデータ、寄付金のデータの卒業生名簿への反映	2/5 年目

9 歴史資料の管理				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
歴史資料の整理と保管				
23	資料目録のデータベース化の構築と活用	資料目録がデータベース化され、研究や授業で歴史資料が活用されている	資料の整理 目録をもとに、データベースの構築	2/5 年目
10 安心・安全な教育環境の提供				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
環境整備				
24	施設・設備の運営維持	施設・設備が機能・性能を継続して適切な状態に保持され、安全、快適、効果的に運用されている	施設・設備の環境を維持・保全するため、関係法令を遵守し、法定点検・定期点検を確実に実施・報告 施設・設備等 5 年計画を立案し、実施する修繕工事・改修工事の計画を推進 施設・設備の日常的な点検に基づき事前措置を行い、異常発生時には速やかに修繕を実施 設備中央監視システムで設備の稼働・消費状態を監視・制御し、効率的な設備運用管理を実施 事故・災害に対する事前の安全対策及び、被災後の復旧対応の実施	2/5 年目
25	施設の耐震化	対象施設の全てが耐震化され、耐震化率100%となっている	耐震化されていない対象施設の耐震改修工事の着手 10号棟(記念館)耐震改修工事の着手	2/5 年目
26	遊休不動産の活用	維持保全ができていない施設は継続して有効活用、できていない施設は解体し不動産の有効活用がなされている	遊休施設活用の方針の立案、検討 樟蔭寮の解体計画及び、跡地利用の方針の立案、計画 樟徳館の有効活用方法の立案、計画	2/5 年目
11 安定した財政基盤の確立				
No.	施策	最終目標	2021年度事業計画	年数
収支バランスの改善				
27	毎年度の提示予算の算出及び、実績比率による検証	収入に見合った支出を行うことにより収支改善が図られている (法人全体の構成比率/ 人件費比率:56.8% 教育研究経費比率:28.6% 管理経費比率:7.0% 他 経常収支差額比率:7.2%)	目標達成状況に基づく支出状況の検証と問題点の見直し 予算決定後の稟議による支出状況の厳格化 (法人全体の構成比率/ 人件費比率:57.7% 教育研究経費比率:28.6% 管理経費比率:7.0% 他 経常収支差額比率:6.2%) 前年度に引続き、稟議による予算追加の妥当性や厳格化するための一定のルール作り等についての検討	2/5 年目
28	施設・設備等 5 年計画の検証	第Ⅲ期中長期計画を踏まえた施設・設備等 5 年計画を検証し、収支改善が図られている	目標達成状況に基づく施設・設備等 5 年計画の検証と問題点の見直し	2/5 年目
遊休不動産の整理				
29	遊休不動産の処分	適正な手順で売却又は譲渡先を決定、契約交渉及び契約締結し、引き渡しされている	売却又は譲渡の方針の立案、検討	2/5 年目